



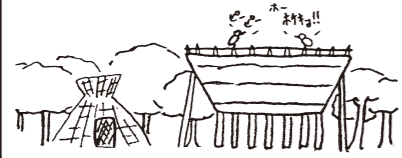
# 散策いずみおまつ

## ～古代ロマン篇～

**いけがみそねしせきこうえん**  
池上曽根史跡公園 ◎

弥生時代の環濠集落としては全国でも有数の規模を誇る。園内には「いずみの高殿」、「やよいの大井戸」をはじめ、竪穴住居などが復元されている。

入園料：無料  
◎公園についてのお問い合わせ  
池上曽根弥生情報館  
休園日：月曜日（祝休日開園、翌日休園）  
年末年始  
開園時間：午前10時～午後5時（10月～4月は午後4時まで）  
電話：0725-45-5544



**いけがみそやよいがくしゅうかん**  
池上曽根弥生学習館

勾玉やプレスレットなど、さまざまな体験メニューを通じて弥生時代を楽しく学習できる。池上曽根遺跡出土の巨大掘立柱も展示。

入館料：無料  
休館日：月曜日（祝休日開館、翌日休館）  
年末年始  
開館時間：午前10時～午後5時（体験は午後4時まで）  
住所：千原町2丁目12-45  
電話：0725-20-1841



**もりむらざかいせきぞうぶつぐん**  
森村境石造物群 △

13体の石仏が祀られる。地元では「せきの地蔵」と呼ばれ、咳の神様として信仰を集める。足神も祀られ、祈願すれば足の病に効果があるといわれる。

**そねじんじゃ**  
曾禰神社

延喜式にその名がみられる式内社。創建は継体天皇の頃といわれるが定かでない。社域全部が史跡池上曽根遺跡に含まれる。



泉大津って歴史がいっぱい！文化がいっぱい！ね、ひつじ？！



**おおさかふりつやよいぶんかほくぶつかん**  
大阪府立弥生文化博物館 ●

弥生時代専門の博物館。池上曽根遺跡の遺物も展示されている。

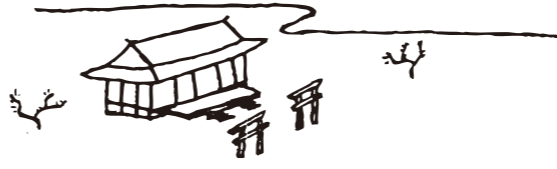
入館料：300円（特別展は別料金）  
休館日：月曜日（祝休日開館、翌日休館）  
年末年始  
開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分迄）  
住所：和泉市池上町4丁目8-27  
電話：0725-46-2162



**いずみあなしじんじゃ**  
泉穴師神社 ◎●○△

式内社で天忍穂耳命（あめのおしほみのみこと）・栲幡千々姫命（たくはたちぢひめのみこと）をまつ。白鳳元年（672）の創建とされ、和泉五社の第二社として古来より知られる。栲幡千々姫命は織物の神で、泉大津近隣織物業者の信仰をあつめてきた。

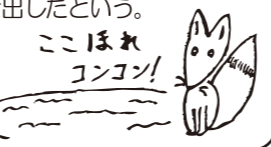
本殿・摂社春日神社本殿・摂社住吉神社本殿・神像が国指定重要文化財となっている。拝殿は市指定文化財、社域内のクスノキ大木群は市の天然記念物。合祀殿はふるさと文化遺産。



**きつねぼり**  
狐堀

泉穴師神社内の豊中公園の中にあった。昔、干ばつの折、毎夜、林の中から狐の鳴き声が聞こえたので、村人がそこを掘ると清水が湧き出したという。

こぼれ  
コンコン!

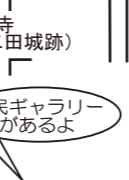


**ふるいけこうえん**  
古池公園

古代の豪族、二田物部氏により築造されたと伝えられる南古池の跡。現在は埋め立てられ、市民の公園として親しまれている。

**ふつたむらざかいせきぞうぶつぐん**  
二田村境石造物群 △

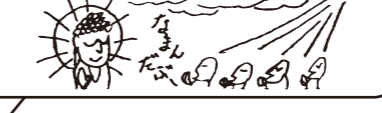
13体の石仏群。地元では「二田のお地蔵さん」と呼ばれ、地蔵だけでなく、役行者・オの神など多彩な神仏を祀る。



- ◎ 国指定・登録文化財あり
- 府指定文化財あり
- 市指定文化財あり
- △ ふるさと文化遺産あり
- ..... モデルコース

**しょうふくじ**  
生福寺 ●○

浄土宗のお寺で、木造阿彌陀如来立像（鎌倉時代）や法然上人像（南北朝時代）、石造逆修板碑（安土桃山時代）などが残る。



**あなしやくしじ**  
穴師薬師寺 ○

宝亀年間（770-80）に大津浦に木造の薬師如来が漂着したことにより創建されたという。泉穴師神社の神宮寺として栄え、もともとは向かいの穴師小学校の場所にあったが移転。市指定文化財の木造四天王立像がある。



**あなしこうえん**  
穴師公園

池浦地区を灌漑していた穴師池を昭和41年（1966）に埋め立てて造られた公園。毎年8月のはじめ頃、市指定無形民俗文化財のあびこ踊りが穴師公園で催されていた。



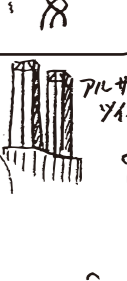
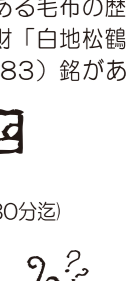
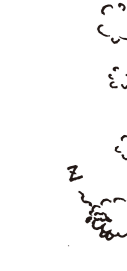
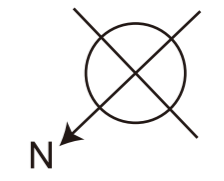
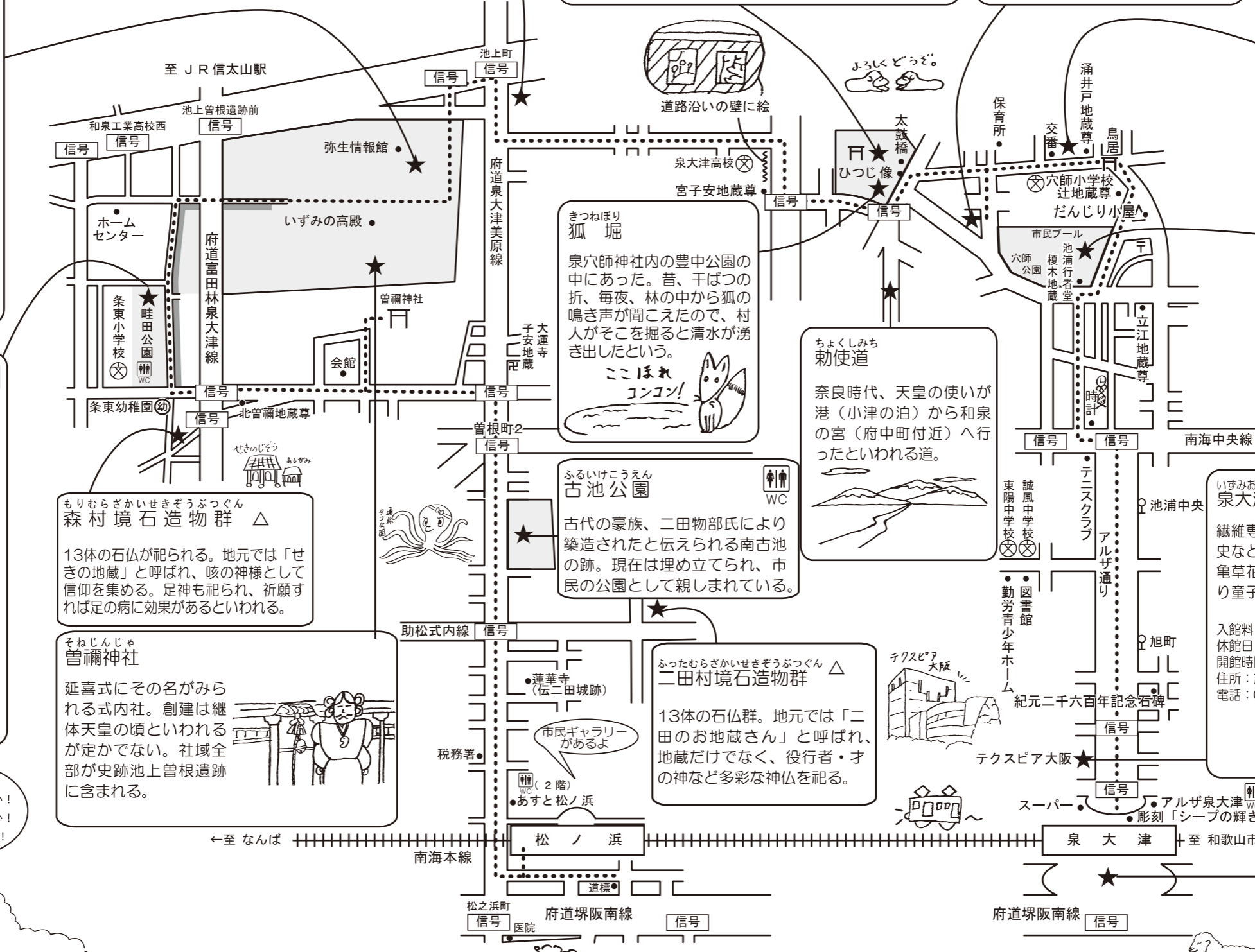
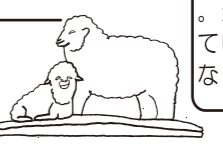
**いずみおつしりつおりあむかん**  
泉大津市立織編館 ◎

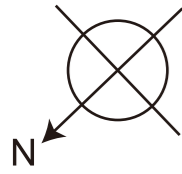
織専門の博物館で、泉大津の地域産業である毛布の歴史などを紹介している。館蔵品の重要文化財「白地松鶴亀草花文織箔肩裾小袖」は天正11年（1583）銘があり童子用としては日本最古。

入館料：無料  
休館日：水曜日・年末年始  
開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分迄）  
住所：旭町22-45 テクスピア1階  
電話：0725-31-4455

**めんよう**  
ブロンズ「緬羊」 △

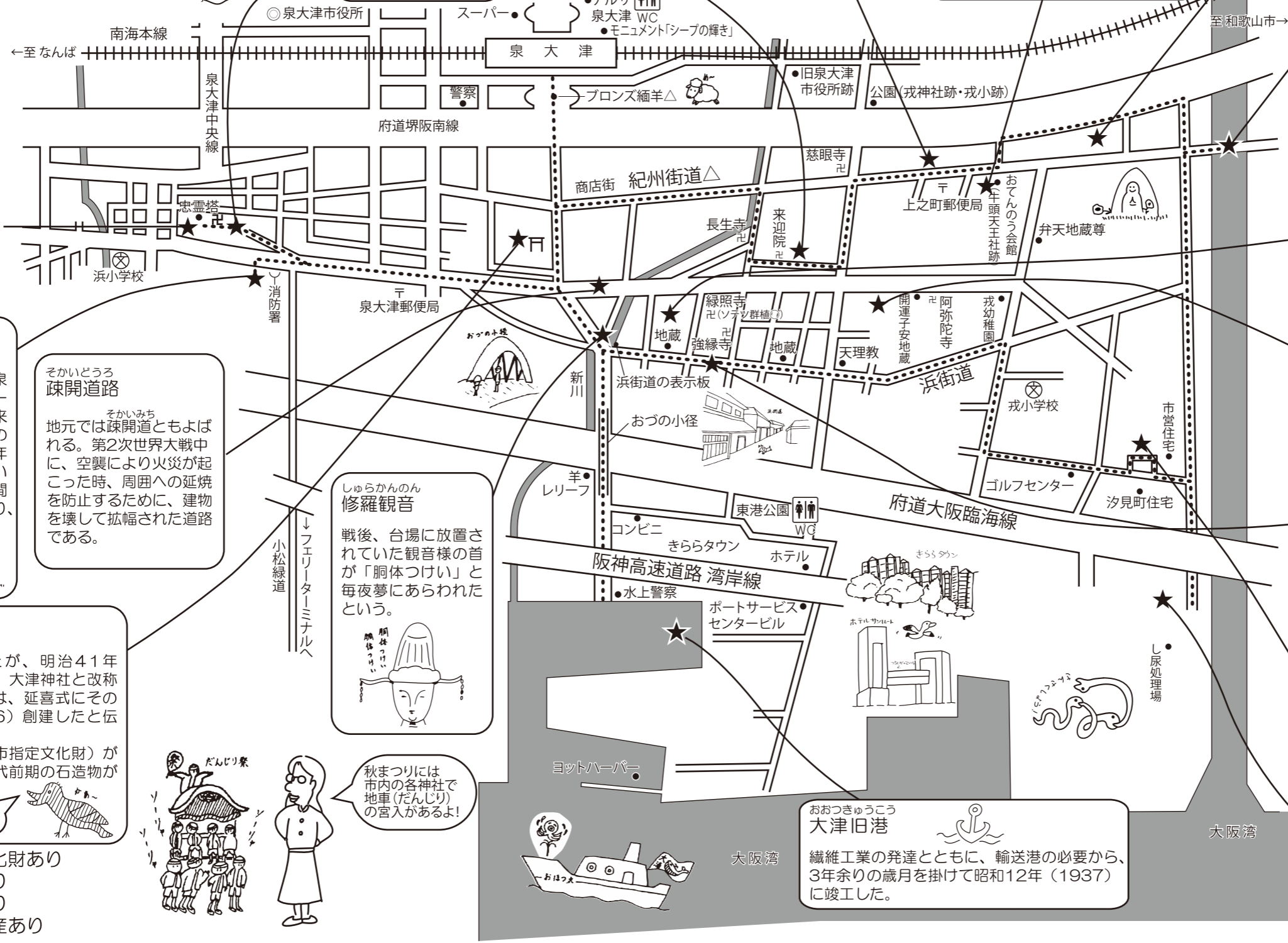
昭和27年（1952）、泉大津市商工会議所開所5周年記念事業として建設された。鳥取県出身の彫刻家、長谷川塊記の作品。当時、毛織物業が活況を呈していたことから緬羊がモデルとなった。





# 散策いずみおまつ

## ～海が語る歴史篇～



**しょうほんじ 上品寺 ○**  
春日町共同墓地内にある。平安中期の阿彌陀如来坐像（市指定文化財・非公開）がある。境内には大永2年(1522)銘の石燈籠が残る。

**あんらくじ 安楽寺 ○**  
市指定文化財の木造阿彌陀如来立像（鎌倉時代）があり、快慶系統の作品としては市内唯一。

**かんのんどう 観音堂**  
(和泉西国第16番札所)  
もと真言宗寺院で、本尊は十一面観世音を本尊とする。明治8年(1875)に一度、廃絶したが、信徒らの願で明治25年(1892)に再建される。

**ごすてんのうしやあと 牛頭天王社跡**  
明治41年(1908)に大津神社に合祀されるまで、この地に宇多神社があった。江戸時代には牛頭天王社と呼ばれており、現在でも「おてんのう」の名で親しまれている。江戸時代の風流(ふりゆう)踊りの流れをくむ古い型を残す「大津おどり」(別名「蟹踊り」)はここで踊られていた。

**しょうのやまあと 城の山跡**  
齊藤氏、藤林氏の居城。延宝5年(1677)の絵図にも山林がみえる。茶人の藤林宗源ゆかりの地。府道沿いに石碑がある。

**たてなみばし 盾並橋**  
寿永2年(1183)、平家方の平忠行と、源氏方の今井兼滋が戦ったところ。忠行が民家の戸板を堤にならべて、盾としたことから、明治14年(1881)に盾並橋と命名された。忠行は、この戦いで戦死した。安政3～4年(1856-1857)に、この付近で追討ぎ出沒。

**なんめいじ 南溟寺 ○△**  
文禄4年(1595)に創建された真宗大谷派の寺院で、戦国時代の真鍋氏居城「真鍋城」跡と伝えられている。江戸時代は下条大津の領主でもあった、伯太藩渡辺家累代の墓碑(ふるさと文化遺産)や位牌(市指定文化財)が残されている。境内には旧大津小学校跡地の石碑がある。この南溟寺を中心として、周辺には緑照寺・強縁寺などの寺院が多く存在し、一種の寺町のような景観をみせている。

**よこやまけしゅうたく 横山家住宅**  
宇多大津村の元庄屋宅。泉大津最大級の屋敷構をもつ住宅。個人宅のため見学はできない。

**はまかいどう 浜街道**  
江戸時代、内町筋と呼ばれたこの通りは、格子戸の町並みをよく残している。当時は真田紐や木綿織などが、この近辺で織られていた。海岸沿いの開発が進む昭和初年頃までは、この道を境として、海側には漁師の家々が立ち並んでいた。

**かにづか 蟹塚**  
元禄時代(1688-1704)大津川河口付近の開発を行った際、海から無数の蟹が這い上がり作物を荒らしたため、これをことごとく撲滅した。その蟹の供養のために建立されたと伝えられる。小さな祠の中には3基の石碑が納められている。また蟹の供養のために始められたのが市指定民俗文化財「大津おどり(別名「蟹おどり」)」といわれ、蟹塚伝承との関係を想起させる。蟹塚は市営住宅内にある。平成25年(2013)市営住宅の改築に伴い現在地に移転。

**だいは 台場**  
大阪砲兵工廠所属の大砲試験場の跡。江戸時代末期に海防の必要性から台場が築かれ大砲3門が設置されていた。明治17年(1884)頃から大砲試験場として使用され、昭和20年(1945)の終戦と共にその役割を終えた。現在は阪神高速の高架下となり当時の面影を残すものはない。

**へいぼち ロシア兵墓地 △**  
日露戦争で捕虜となり、浜寺俘虜収容所(はまでらふりょしゅうようじょ)で病没したロシア兵89名が眠る。墓地中央には当時のロシア軍の旅順港戦友により建立された「五稜の碑」があり、ロシア語、アラビア語、ドイツ語、ヘブライ語など5カ国語で「霊よ安かれ」の意味の碑文が刻まれている。

**たんのわざんまい 淡輪三昧**  
消防署の北隣にある。戦国時代に泉南淡輪を本拠とした土豪淡輪氏の一族、飯田氏の墓所。羽柴秀吉の根来攻めの際、淡輪大和守徹吉が大津の地に隠棲したといわれ、天正8年(1580)銘の五輪塔が彼の墓といわれている。墓所内には、天文年間(1532-1555)の五輪塔があり、現在確認できる市内最古の墓石である。

**おおつじんじや 大津神社 ○**  
もと若宮八幡宮と呼ばれていたが、明治41年(1908)に近郷4社を合祀して、大津神社と改称した。境内社の一つである粟神社は、延喜式にその名がみえる古社で元亀7年(776)創建したと伝えられる(市指定文化財)。神社には珍しい「将棋図絵馬」(市指定文化財)がある(非公開)。境内には江戸時代前期の石造物が残る。



秋まつりには市内の各神社で地車(だんじり)の宮入があるよ!

**しゅうらかんのん 修羅観音**  
戦後、台場に放置されていた観音様の首が「胴体ついで」と毎夜夢にあらわれたという。

**そかいどうろ 疎開道路**  
地元では疎開道ともよばれる。第2次世界大戦中に、空襲により火災が起こった時、周囲への延焼を防止するために、建物を壊して拡幅された道路である。

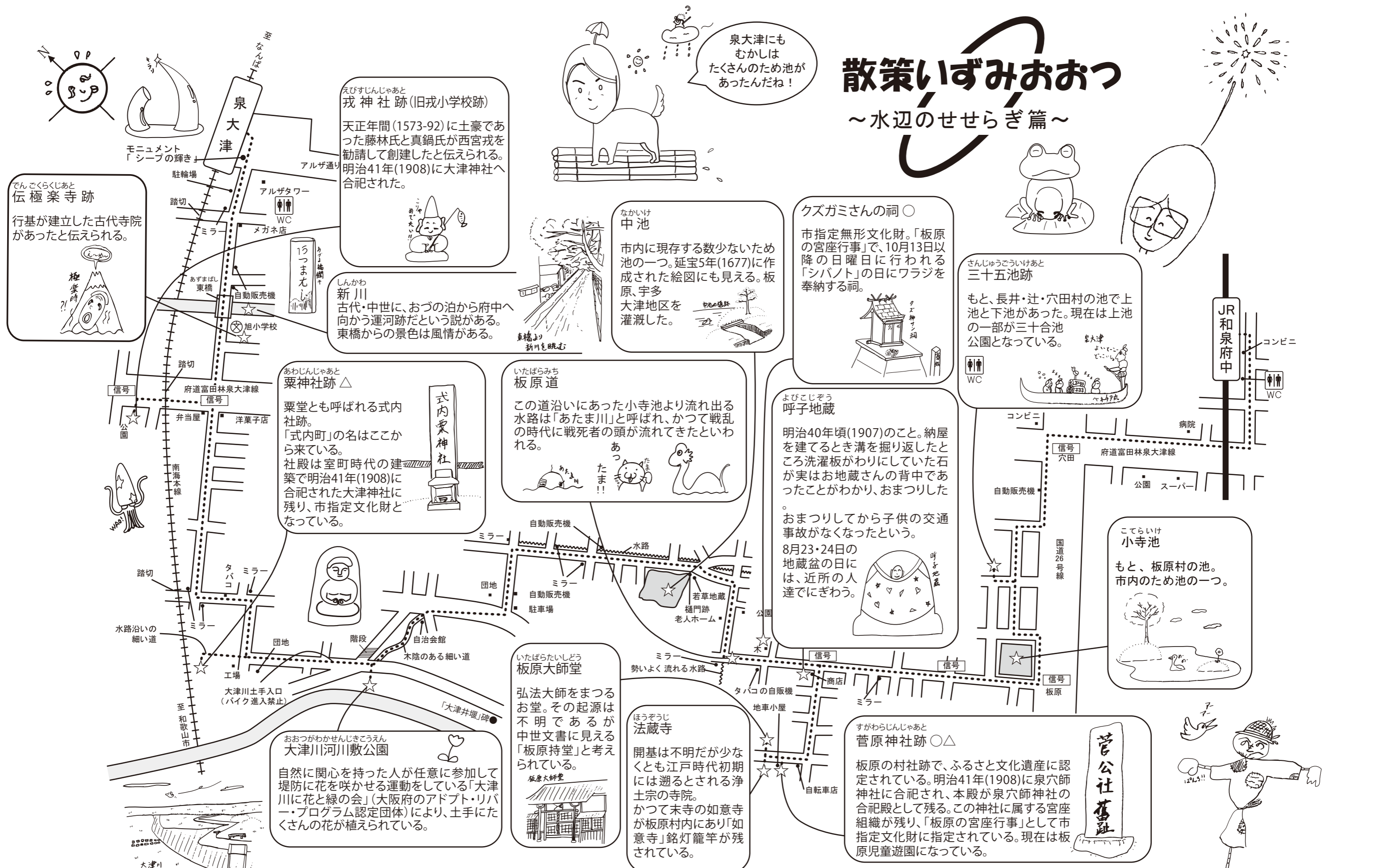
- ◎ 国指定・登録文化財あり
- 府指定文化財あり
- 市指定文化財あり
- △ ふるさと文化遺産あり
- ..... モデルコース





# 散策いずみおおつ

～水辺のせせらぎ篇～



でんごくらくじあと  
伝極楽寺跡  
行基が建立した古代寺院  
があったと伝えられる。

えびすじんじゃあと  
戎神社跡(旧戎小学校跡)  
天正年間(1573-92)に土豪であ  
った藤林氏と真鍋氏が西宮戎を  
勧請して創建したと伝えられる。  
明治41年(1908)に大津神社へ  
合祀された。

泉大津にも  
むかしは  
たくさんのため池が  
あったんだね!

なかいけ  
中池  
市内に現存する数少ないため  
池の一つ。延宝5年(1677)に作  
成された絵図にも見える。板  
原、宇多  
大津地区を  
灌漑した。

クズガミさんの祠○  
市指定無形文化財。「板原  
の宮座行事」で、10月13日以  
降の日曜日に行われる  
「シバノト」の日にワラジを  
奉納する祠。

さんじゅうごういけあと  
三十五池跡  
もと、長井・辻・穴田村の池で上  
池と下池があった。現在は上池  
の一部が三十合池  
公園となっている。

あわじんじやあと  
粟神社跡△  
粟堂とも呼ばれる式内  
社跡。  
「式内町」の名はここか  
ら来ている。  
社殿は室町時代の建  
築で明治41年(1908)に  
合祀された大津神社に  
残り、市指定文化財と  
なっている。

いたばらみち  
板原道  
この道沿いにあった小寺池より流れ出る  
水路は「あたま川」と呼ばれ、かつて戦  
乱の時代に戦死者の頭が流れてきたとい  
われる。

よびこじぞう  
呼子地藏  
明治40年頃(1907)のこと。納屋  
を建てるとき溝を掘り返したと  
ころ洗濯板がわりにしていた石  
が実はお地藏さんの背中であ  
ったことがわかり、おまつりした  
。おまつりしてから子供の交通  
事故がなくなったという。  
8月23・24日の  
地藏盆の日  
には、近所の人  
達でにぎわう。

こてらいけ  
小寺池  
もと、板原村の池。  
市内のため池の一つ。

おおつがわかせんじきこうえん  
大津川河川敷公園  
自然に関心を持った人が任意に参加して  
堤防に花を咲かせる運動をしている「大津  
川に花と緑の会」(大阪府のアドプト・リバ  
ー・プログラム認定団体)により、土手にた  
くさんの花が植えられている。

いたばらだいしどう  
板原大師堂  
弘法大師をまつる  
お堂。その起源は  
不明であるが  
中世文書に見える  
「板原持堂」と考え  
られている。

ほうぞうじ  
法蔵寺  
開基は不明だが少な  
くとも江戸時代初期  
には遡るとされる浄  
土宗の寺院。  
かつて末寺の如意寺  
が板原村内にあり「如  
意寺」銘灯笼竿が残  
されている。

すがわらじんじやあと  
菅原神社跡○△  
板原の村社跡で、ふるさと文化遺産に認  
定されている。明治41年(1908)に泉穴師  
神社に合祀され、本殿が泉穴師神社の  
合祀殿として残る。この神社に属する宮座  
組織が残り、「板原の宮座行事」として市  
指定文化財に指定されている。現在は板  
原児童遊園になっている。

- 国指定・登録文化財あり
- 府指定文化財あり
- 市指定文化財あり
- △ ふるさと文化遺産あり
- ..... モデルコース



# 泉大津の歴史と文化財

## ■泉大津の概要

大阪府の南部に位置し、北部・東部は高石市と和泉市、南部は大津川を境として泉北郡忠岡町と隣接しています。西北部は大阪湾に面し、はるかに六甲山、淡路島を望むことができます。

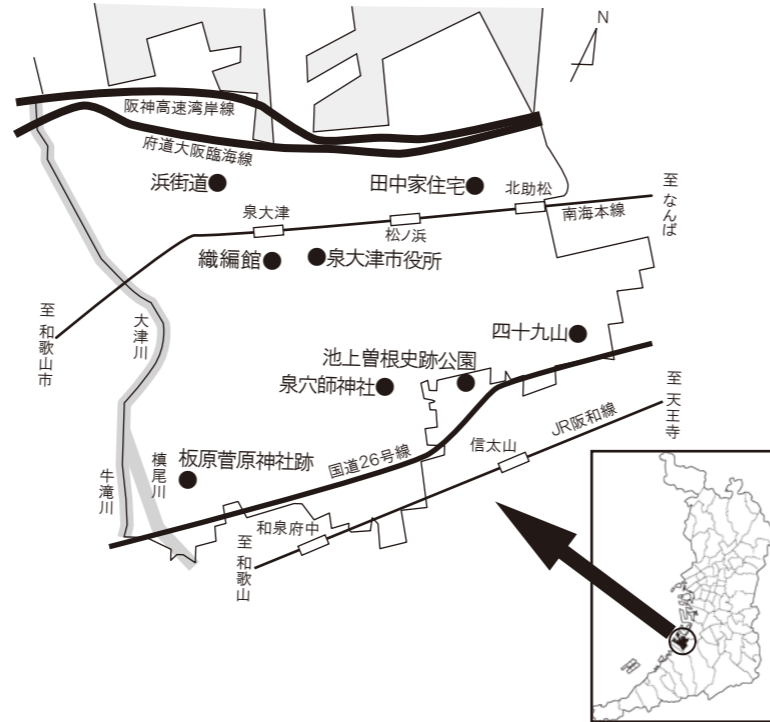
経緯度は、東経135度24分、北緯34度30分です。

地形は市内全域がほぼ平坦で、市街化区域になっています。気候は、瀬戸内性気候に属し、年平均の気温は17度前後と温暖で、冬季に氷点下になることは比較的少なく、降雨量は年間850～1,400mm程度です。

市制施行は昭和17年(1942)で、その当時の市域面積は、8.20平方km、人口は33,307人でした。その後、市勢の発展と、臨海部の埋め立てにより、平成28年1月1日現在面積は13.41平方km(うち約4.48平方kmが公有水面の埋立地)、人口は75,882人となっており、東西約5.4km、南北約5.5kmにわたる都市です。

市の木はくすのき、市の花はさつきです。

オーストラリア グレータージョーン市、和歌山県日高川町と友好都市提携を結んでいます。



## ■泉大津の歴史

### 古代

泉大津市の歴史を辿ると、古くは豊中遺跡・板原遺跡にみられる縄文時代の遺構がありますが、最もよく知られているのは弥生時代の大集落遺跡、史跡池上曾根遺跡でしょう。集落は環濠とよばれる水路に囲まれ、その中心部には棟持柱のある大型建物や大型のくり抜き井戸がみつかっています。この大型掘立柱建物の柱の一本が、年輪年代測定法により、伐採年が紀元前52年であることがわかり、弥生時代の年代観を変える大きな発見となりました。遺跡からタコツボや土錘(漁具につける錘)なども多く見つかり、魚介類を多く食べていたことがわかります。大阪湾の豊かな海の恵みが池上曾根遺跡の人々の生活を支えていたのです。

海は泉州地域の歴史を知る上で欠かせない存在です。泉大津にも海を通じて人々が往来し、様々な文化がもたらされました。

古代の泉大津には、国府の外港である「おづの泊」がありました。和泉国府は和泉市府中町にあったと考えられていますが、その海の玄関口が泉大津だったのです。そのため泉大津には都びとが多く訪れています。その中には『土佐日記』の作者である紀貫之や『更級日記』の作者である菅原孝標女など歴史上の人物もいました。

### 中世

中世は武士が登場した時代です。泉大津市域にも玉井氏、助松氏、板原氏などの武士が台頭し、力を誇示しました。その背景には有力貴族や有力寺社の争いなどもありました。泉穴師神社の神宮寺であった穴師薬師寺も中世に勢力を誇った寺院で、和泉市の松尾寺と和泉国総講師職という地位を争いました。

戦国時代には、真鍋氏が大津浦近くの高台に、玉井氏が曾根地区に、藤林氏が大津川河口近くの高台に砦を築き、戦に備えました。



史跡池上曾根遺跡



泉穴師神社 本殿

### 近世

江戸時代の泉大津市域は幕領や大名領が数多く存在しました。もっとも支配が長期にわたった大名は、豊中地域を支配地とした大和小泉藩片桐氏です。奈良県の大和小泉を本拠とした片桐氏は豊中地域にある泉穴師神社の護持に努めました。片桐氏2代藩主貞昌は茶人として著名で、石見守であったことからその流派は石州流と呼ばれました。片桐石州の高弟に藤林宗源がいます。宗源は高津町の藤林家より出た人物で、片桐家の家老を勤めました。助松本陣田中家住宅の庭は宗源作とされています。

次いで支配の長い大名は、伯太藩渡辺氏です。和泉市伯太町に陣屋を構えた1万3000石の小大名です。その菩提寺は神明町の南湊寺で、そこには歴代の位牌や墓碑が現存し市内唯一の大名墓所となっています。

江戸時代の大名は例外を除いて参勤交代が義務付けられていました。泉大津の海側を南北に縦断する紀州街道には紀州徳川家が参勤の際に休息するための施設(本陣)が残されており、助松本陣あるいは田中本陣と呼ばれています。

田中家は本陣と地域の庄屋をかねていました。そのため、本陣にふさわしい式台・玄関・上段の間・庭園・長屋門とともに、屈指の広さを持つ土間や、飢饉に備えて食糧を保管した備前倉など庄屋屋敷としての施設も設けられていました。

江戸時代の泉州では、農作物として綿栽培が盛んでした。その綿は泉州木綿と呼ばれ、泉大津でも綿づくりが盛んに行われました。収穫された綿は下条・宇多大津地区に集められ、ここで真田紐・白木綿・縞木綿などに加工されて商品として流通しました。その当時の家並みが現在浜街道と呼ばれている東港町付近に残されています。

### 近・現代

明治時代に入ると、泉大津は大きくかわっていきました。廃藩置県によって藩がなくなると、明治4年(1871)泉大津市域は堺県となり、その後明治14年(1881)に大阪府へ編入されました。この時はまだ泉大津市はなく、江戸時代の村々がそのまま行政単位として残っていました。町村制の施行は明治22年(1889)で、この時にはじめて現在の泉大津市の前身になる上条村、大津村、穴師村が誕生しました。大津村は後に大津町となり、これら1町2村が合併したのが昭和6年(1931)、そして昭和17年(1942)、大阪府下7番目の市として泉大津市が誕生しました。

時代の変化を告げる大きな出来事の一つに南海鉄道の開業があります。南海鉄道は明治29年(1896)に工事が着工され、難波～和歌山間の全線開通は明治36年(1903)のことでした。

近代は戦争の時代でもありました。明治37年(1904)に始まった日露戦争では、ロシア兵捕虜が多数日本に送られ、高石市浜寺にも収容所がたてられました。捕虜には日本で亡くなった人もあり、その人々を埋葬するために春日町共同墓地の一角にロシア兵墓地がつけられました。現在でも時折ロシアからの墓参団が訪れます。

大津川河口の台場と呼ばれた場所には、主に大砲を製造する官営の工場、大阪砲兵工廠の大砲試験場があり、試射の際は砲の発射音が海辺に響き渡ったといわれます。太平洋戦争終結後は取り壊され現在ではその面影はありません。

大正時代には松ノ浜地区周辺が別荘地として開発が進み「南浜寺」と呼ばれて洋風住宅が建てられました。旧海野家住宅(古の足跡篇参照)はその代表的な建物です。

産業では、江戸時代の木綿産業にかわり明治時代に毛布製造を中心とした繊維産業が盛んになりました。特に戦後の高度成長期にはガチャンと織れば万単位の稼ぎがあがる、いわゆる「ガチャ万」景気が到来し大いに活気づきました。



伯太藩渡辺家墓所



田中家住宅主屋



ロシア兵墓地



泉大津毛布産業のシンボル ブロンズ「綿羊」

# 大津神社

厄除け

おまつりされている神様  
 息長帯比売命おきながたらしひめのみこと  
 品陀別命はむたわけのみこと  
 素戔鳴尊すさのおのみこと  
 天照大神あまてらすおおみかみ  
 菅原道真公すがわらのみちざねこう  
 天太玉命あめのふとたまのみこと

\*みどころ\*  
 かつて「カラスの杜」と呼ばれた広い境内には、摂社・末社が立ち並んでいます。もとは若宮八幡宮と呼ばれており、当地「若宮町」の地名は本神社にちなんで昭和19年（1944）につけられました。

\*文化財\*  
 将棋図絵馬（非公開）  
 粟神社（非公開）  
 石灯篭（寛永元年の銘がある）  
 石鳥居（寛永20年の銘がある）

◎MAP→海が語る歴史篇

# 福神社



# めぐりガイド



# 曾禰神社

\*みどころ\*  
 延喜式に記載のある延喜式内社で、社域は国史跡池上曾根遺跡内にあり、池上曾根史跡公園に隣接しています。  
 室町時代には、この地を支配した玉井氏の居城として利用されたこととなり、社殿東側に残る土塁がその名残をつたえます。  
 \*文化財\*  
 二田国津神社社号碑（公開）

家内安全  
家運隆盛

おまつりされている神様  
 饒速日命にぎはひのみこと  
 日本書紀に出てくる神様で、物部氏の祖神と伝わります

◎MAP→古代ロマン篇

# 助松神社

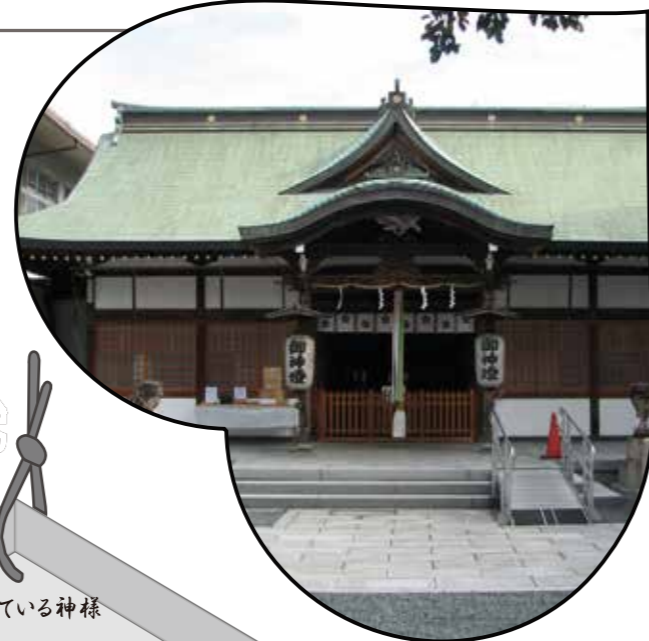
\*みどころ\*  
 明治7年（1874）の記録によれば、もとは小さな祠があったのを元亀2年（1571）の秋に田中遠江守が社地を寄付して村社となったと記されています。鳥居をくぐると天然記念物の東天紅（ニワトリ）が出迎えてくれます。

\*文化財\*  
 駒馬園衛立（本殿内にて公開）  
 鳥居（天和2年の銘がある）  
 百度石（元禄7年の銘がある）

◎MAP→古の足跡篇

学業成就

おまつりされている神様  
 武甕槌命たけみかづちのみこと  
 経津主命ふつぬのみこと  
 天児屋命あめのこやねのみこと  
 比売大神ひめのおかみ  
 菅原道真公すがわらのみちざねこう  
 春日大社の祭神四神がおまつりされています



# 泉穴師神社

\*みどころ\*  
 延喜式に記載のある延喜式内社で、和泉五社の第二社です。本殿には2座の神様がおまつりされていることから、拝殿前には鳥居が2つ並んでいる珍しい様式です。

\*文化財\*  
 ●国指定重要文化財（通常は非公開）  
 本殿・摂社住吉神社・摂社春日神社・木造神像  
 ●府指定文化財（非公開）  
 木造神像・太鼓  
 ●市指定文化財  
 拝殿（公開）

縁結び

おまつりされている神様  
 天忍穂耳命あめのほすみのみこと  
 栲幡千千姫命たけはたちぢひめのみこと  
 夫婦の神様がおまつりされています。  
 栲幡千千姫命は織物の神であることから、織姫産業の盛んな大津では厚く信仰されています。

◎MAP→古代ロマン篇

\*おまつりされている神様は、主な祭神を記載しています。

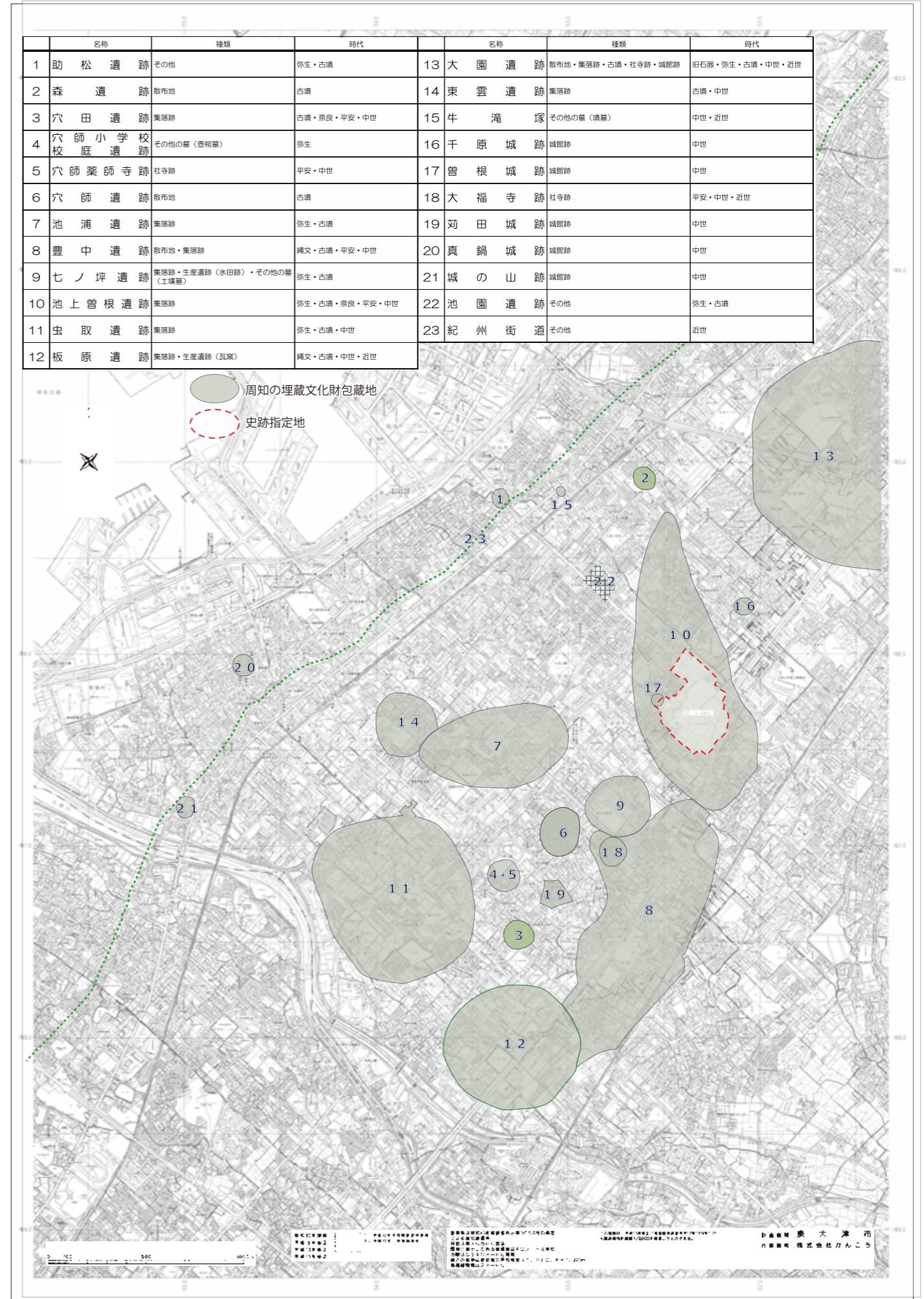
各神社にの摂社・末社などにはほかの神様もおまつりされています。

# 泉大津市埋蔵文化財包蔵地図

## 泉大津市内指定文化財等一覧

平成29年4月1日現在

種別	名称	所在地	
国指定文化財	国指定重要文化財 建造物 泉穴師神社本殿 附 棟札五枚	泉穴師神社	
	国指定重要文化財 建造物 泉穴師神社摂社 春日神社本殿 附 棟札一枚	泉穴師神社	
	国指定重要文化財 建造物 泉穴師神社摂社 住吉神社本殿 附 棟札二枚	泉穴師神社	
	国指定重要文化財 彫刻 泉穴師神社 木造神像	泉穴師神社	
	国指定重要文化財 工芸品 白地松鶴亀草花文繡箔肩裾小袖	市立織編館	
	国指定史跡	池上曾根遺跡	曾根町ほか
	国登録有形文化財 建造物 田中家住宅主屋	助松町	
	国登録有形文化財 建造物 田中家住宅玄関及び座敷棟	助松町	
	国登録有形文化財 建造物 田中家住宅備前倉	助松町	
	国登録有形文化財 建造物 田中家住宅勝手門及び納屋	助松町	
国登録有形文化財 建造物 田中家住宅表門	助松町		
国登録有形文化財 建造物 田中家住宅築地塀	助松町		
府指定文化財	府指定有形文化財 彫刻 生福寺 絹本著色 法然上人像	生福寺	
	府指定有形文化財 彫刻 泉穴師神社 木造神像	泉穴師神社	
	府指定有形文化財 彫刻 千原観音堂 木造十一面観音立像	千原観音堂	
	府指定有形文化財 彫刻 生福寺 木造阿弥陀如来立像	生福寺	
	府指定有形文化財 工芸品 泉穴師神社 太鼓	泉穴師神社	
市指定文化財	市指定有形文化財 建造物 大津神社 摂社粟神社本殿	大津神社	
	市指定有形文化財 建造物 泉穴師神社 拝殿 附石鳥居	泉穴師神社	
	市指定有形文化財 建造物 生福寺 石造逆修板碑	生福寺	
	市指定有形文化財 彫刻 生福寺 絹本著色 仏涅槃図	生福寺	
	市指定有形文化財 彫刻 上品寺 木造阿弥陀如来坐像	上品寺	
	市指定有形文化財 彫刻 穴師薬師寺 木造四天王立像	穴師薬師寺	
	市指定有形文化財 彫刻 安楽寺 木造 阿弥陀如来立像	安楽寺	
	市指定有形文化財 彫刻 聖徳寺 木造 不動明王立像	聖徳寺	
	市指定有形文化財 歴史資料 下条・宇多両大津村延宝絵図	東港町個人蔵	
	市指定有形文化財 歴史資料 泉州泉郡村々山川之間之図	宮町個人蔵	
	市指定有形文化財 歴史資料 泉州泉郡宇多大津村絵図	下之町個人蔵	
	市指定有形文化財 歴史資料 渡辺家位牌及び厨子	南浜寺	
	市指定有形民俗文化財 民俗 赤ゲット	東港町個人蔵	
	市指定有形民俗文化財 民俗 板面著色馭馬図衝立	助松神社	
	市指定有形民俗文化財 民俗 板面著色将棋図絵馬	大津神社	
	市指定無形民俗文化財 民俗 大津おどり	旧大津地区	
	市指定無形民俗文化財 民俗 あびこ踊り	我孫子地区	
	市指定無形民俗文化財 民俗 板原の宮座行事 附宮座関係資料	板原地区	
	市天然記念物	泉穴師神社 クスノキ大木群	泉穴師神社
市天然記念物	緑照寺のソテツ群植	緑照寺	
泉大津ふるさと文化遺産	有形文化財	ロシア兵墓地	春日町墓地
	有形文化財	四十九山	千原町一丁目
	有形文化財	ブロンズ「緬羊」	泉大津駅前
	有形文化財	粟神社跡	式内町
	有形文化財	紀州街道	助松町他
	有形文化財	二田村境石造物群	二田町二丁目
	有形文化財	伯太藩渡辺家墓所	南浜寺(神明町)
	有形文化財	森村境石造物群	曾根町一丁目
	有形文化財	泉穴師神社合祀殿	豊中町一丁目
	有形文化財	板原菅原神社跡	板原町三丁目
	無形文化財	伝統的製法による毛布の織機整備と製織技術	白野 彪 白野 秀雄
有形文化財	助松村境石造物群	助松町三丁目	



※ 泉大津ふるさと文化遺産認定制度とは、  
 泉大津市内の歴史遺産や文化財等のうち重要なものを、泉大津市文化財保護委員会が認定し顕彰する制度です。  
 ※ 文化財は非公開のものもあります。